

生活者・企業・行政のより良い関係構築へ

一般社団法人日本ヒープ協議会
代表理事

梶原 織梨江



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当協議会は、1978年より「生活者と企業のパイプ役」として活動を続け、設立40周年を迎えました。一昨年のシンポジウム「21世紀の消費社会と男女共同参画をふり返る～女性視点は企業をどう変えてきたのか～」に続き、昨年9月には、40周年記念シンポジウム「Design the Future～生活者と企業のこれからを描く～」を開催しました。2年間にわたるプロジェクトを通じ、これまでの社会環境変化とヒープの活動を振り返るとともに、10年後に向けた提言をまとめた記念誌も発行しました。

提言のなかでヒープが描いたのは、生活者と企業のダイナミックな新しい関係です。生活者と企業が共に将来をデザインし、新しい価値を生み出していく、その中心にあるのが生活者視点です。目の前の変化に対応する「変化対応型競争社会」ではなく、将来を描いてアクションする「デザイン型共創社会」を目指して、当協議会は50周年に向けたスタートを切ります。

今年度は、「次世代へつなぐ、これからのヒープ～生活者視点と多様性を企業で発揮す

る～」をテーマに、ヒープの強みである生活者視点、そして会員一人ひとりの多様性から生まれる相乗効果を企業活動へ還元し、社会へ貢献することを目指して活動しています。当協議会の会員は、月例研究会や分科会活動等を通じて広い視野・高い視座を学ぶとともに、異業種ネットワークを活かして他社事例や社会動向等の情報収集と提言活動に取り組んでいます。最近では、企業間だけでなく関連省庁との連携も強化しており、消費者庁「消費者志向経営推進組織」や内閣府「男女共同参画推進連携会議 団体推薦議員」としての活動、経済産業省「ヘルスケアサービスガイドラインに関する検討委員会」等において、生活者視点と経営視点を合わせ持つ事業者団体として積極的に提言しています。

このような活動を積極的に展開できるのも、ひとえに皆様のご理解とご支援の賜物と心から感謝いたします。40周年の節目に再認識したヒープの強みを活かし、生活者・企業・行政のより良い関係構築に向けた活動に努め、邁進してまいります。本年もどうぞよろしくお願いたします。

生活者と企業視点の双眼で新しい価値を創造・提案

一般社団法人日本ヒーブ協議会

関西支部 支部長

龍 麻衣



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は日本ヒーブ協議会に格別のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

日本ヒーブ協議会は、企業の消費者関連部門などに働く女性が「生活者と企業のパイプ役」としてより良い仕事をするため、その能力向上を目的に1978年に設立、関西支部はその5年後に設立されました。

今年度は「次世代へつなぐ、これからのヒーブ～生活者視点と多様性を企業で発揮する～」という年間の活動テーマに沿って、月例研究会、公開講演会、企業見学会、分科会活動などを通じて、会員が未来を見据えて次の行動を考え、より良い消費社会を描く活動に取り組んでおります。

昨年10月には、関西支部設立35周年記念として「多様な働き方の未来をそうぞうしよう」をテーマにセミナーを開催いたしました。テレワークに関する講演で未来の働き方を理解・体験したのち、ヒーブカフェ（ワールドカフェ）を行い、参加者全員で未来の働き方を想像・創造いたしました。様々な立場から活発な考えが発信され、それを共有することで、また新しい考えが生まれ、ワクワクしながら未来を「そうぞう」することができました。

また、関西支部では、月例研究会の企画立案から報告書作成まで会員全員が運営に参画しています。それにより、企画・遂行力、組織運営力、課題解決力などを身につけるとともに、ヒーブの強みである業態・職種を超えたネットワークを活用し、会員一人ひとりのレベルアップ・キャリアアップに取り組んでおります。会員自らが企画した企業見学会や講演会において、多様な企業事例を学び、消費者志向経営や持続可能な社会に向けての課題を考える機会を創出しています。

ヒーブ視点での消費者教育では、大学など関西支部エリアの各地で講義を行っております。昨年の講義の参加者からは「生活力をアップさせることが大切だと感じた」「次世代の暮らしへの配慮も重要だと思う」等の意見が聞かれました。

これらの活動は、ひとえに皆さまのご理解とご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今後も、生活者視点と企業視点の双眼を持って新しい価値を創造・提案し、生活者の利益と企業の健全な発展に寄与し、社会に貢献すべく活動して参ります。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。